

# あいのり

---

## Monthly

2023.09.29



PARIS MIKI ASSET MANAGEMENT

## 9月のマーケット概要

9月の米国マーケットは、8月下旬から原油価格が80ドルを突破し再上昇し始めたことに伴い、米10年債金利が4.2%台から月末では4.6%台まで上昇しています。これに応じて特にナスダックを中心に米株式市場が弱含む要因となりました。20日に開催されたFOMCでは、FFレートは予想通り現状維持となったものの、今後の見通しが想定以上にタカ派に変更されました。今回のFOMC参加者からは、来年2024年も金利を高い水準に維持し、景気を減速させることによりインフレを徹底的に退治するという意思を見せております。このFRBのタカ派スタンス変更並びに月末にかけて連邦政府債務上限交渉の不透明感から主要米国株式指標であるDOW平均が前月末比▲3.5%、S&Pが▲5.1%、ナスダック100が▲4.9%と、下落して引けました。

一方、日経平均に関しましては、米国株式に引きずられ、また半期末の需給の特殊要因が重なり弱含みましたが、円安や岸田首相からの10月中の経済対策の発表期待もあり下落幅は▲2.3%に抑えられました。今後も、米国のインフレ指標と原油価格、米金利には引き続き注目が集まります。

## コードモファンド

変幻自在ずーっとおまかせ

### 【9月の運用コメント】

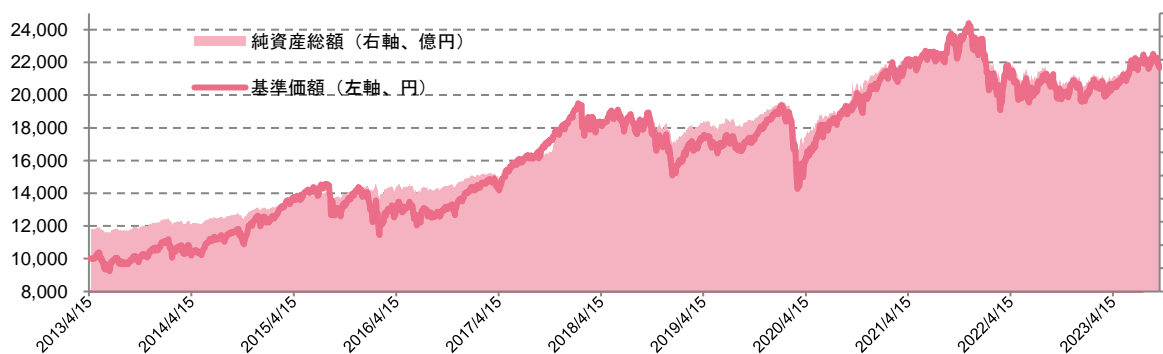
基準価額は月間で▲2.5%となり、年初来の上昇率は、+9.9%となりました。為替は対ドルでは円安、対ユーロでは円高で推移し、全体で約0.2%の上昇に寄与しました。

米国長期金利が4.6%台と大幅に上昇推移し、米金利に比べ米国株式の割高感が際立ったことから、米欧株式ファンドを中心に約8%減らし、新興国株式についても計2%減らし、金属・ゴールドファンドを約3%減らしました。一方で、日本株の比率を約3%増やしました。これにより、日本株比率は46%から約50%となりました。また、外貨建比率は42%から32%へ為替リスクが減少となりました。

9月は新規にシンプレクス中計ファンドを購入開始しました。月末にかけて欧米の株式比率を大きく下げ、キャッシュ比率も一時的に17%へと増やしましたが、下落トレンドが終了に近づくにつれ今月或いは来月11月にかけて再度組み入れ直す予定です。

### 基準価額と純資産総額の推移

#### 組み入れファンドTOP5 基準価額の前月比

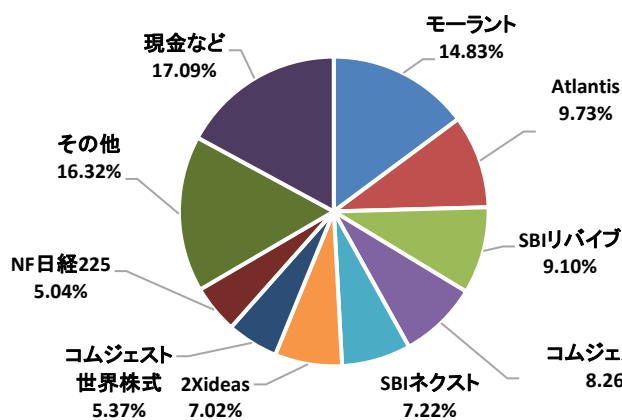
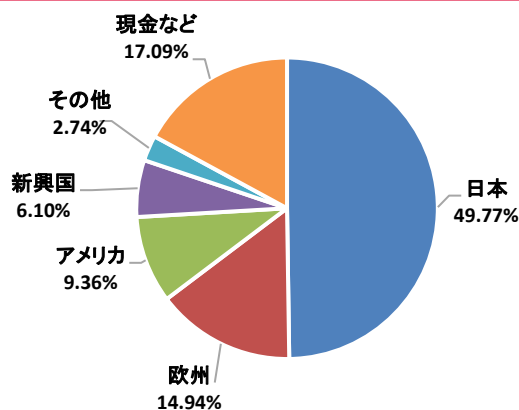


モーラント	5.66%
Atlantis	-1.59%
SBIリバイブ	-2.35%
コムジェストEU	-7.92%
SBIネクスト	-4.01%

### コードモファンド概況

基準価額	21,659円	信託期間	無期限
純資産総額	9,681百万円	決算日	毎年2月25日
設定日	2013年4月15日		(休業日の場合は翌営業日)

### 資産構成比率(組入ファンド全18本)(左:国別、右:ファンド別)



### 期間別騰落率(%)

1カ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
-2.54%	-1.84%	6.03%	8.48%	11.00%	15.24%	113.94%	116.59%
					(複利年率)	(複利年率)	(複利年率)
					(2.87%)	(7.90%)	(7.67%)

### ファンドにかかわる費用

運用管理費用  
(信託報酬)

年率1.10%(税抜き1.0%)

組み入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.75±0.5%(税込/概算)

# 浪花おふくろファンド

## じっくりどっしり長期運用

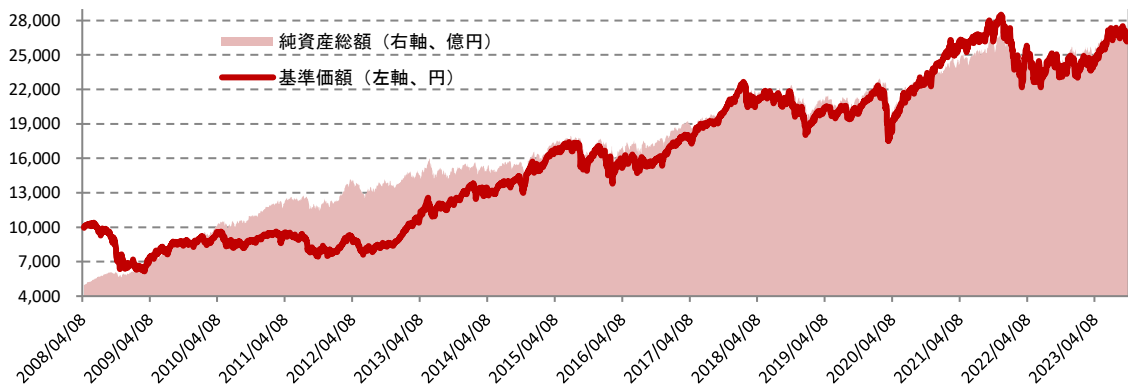
### 【9月の運用コメント】

基準価額は月間で▲3.9%となり、年初来の上昇率は+12.0%となりました。為替が対ドルで円安となったことから、全体では0.6%の押し上げ要因となりました。

米国長期金利が4.6%台と大幅に上昇推移し金利に対する株式の割高感が際立ったことから、欧米株式ファンドを中心に約13%減らし、新興国株式ファンドについても2%減らしました。一方で、日本株の比率を約4%増やしました。これにより、日本株比率を38%から約42%へ増加し、米国欧州株比率は37%から26%へ減少しました。日本株式の比率は50%程度まで積み増ししたいと考えています。

9月の取引により、外貨建比率は53%から37%へと為替リスクは減少となりました。9月は新規にシンプレクス中計ファンドを購入開始しました。月末にかけて欧米の株式比率を大きく下げ、キャッシュ比率も一時的に23%となっておりますが、この下落トレンドが終了に近づくにつれ今月或いは来月に再度組み入れ直す予定です。

### 基準価額と純資産総額の推移



### 組み入れファンドTOP5 基準価額の新月比

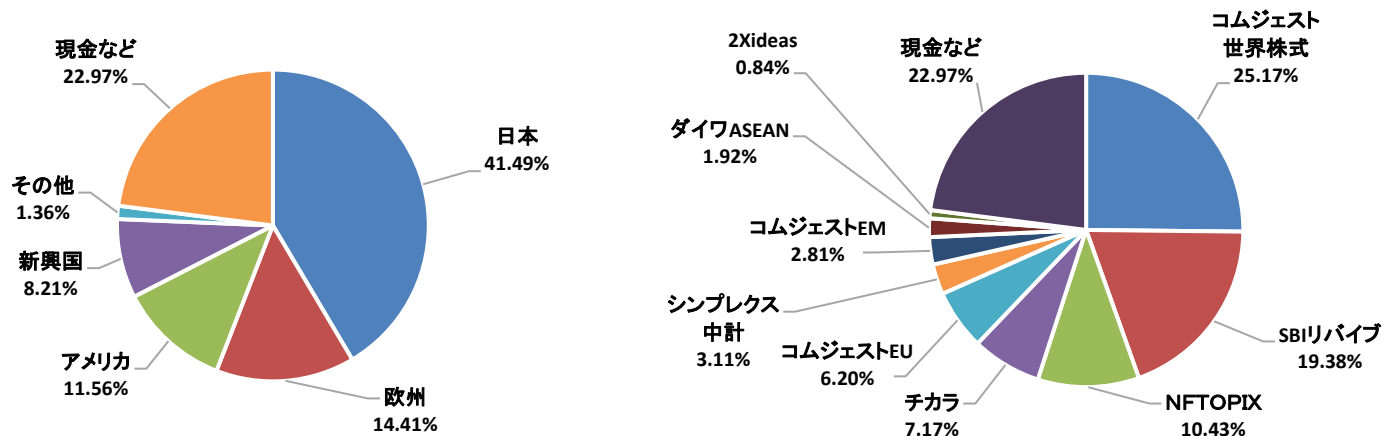
コムジェスト 世界株式	-4.42%
SBIリバイブ	-2.35%
NFTOPIX	0.75%
チカラ※	-8.42%
コムジェストEU	-7.92%

※カーディフは「チカラ」にファンド名を変更いたしました。

### 浪花おふくろファンド概況

基準価額	26,161円	信託期間	無期限
純資産総額	1,634百万円	決算日	毎年3月3日
設定日	2008年4月8日		(休業日の場合は翌営業日)

### 資産構成比率(組入ファンド全9本)(左:国別、右:ファンド別)



### 期間別騰落率(%)

1ヵ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	3年	5年	10年	設定来
-3.87%	-3.20%	7.66%	12.02%	15.08%	20.81%	110.79%	161.61%
					(複利年率) (3.85%)	(複利年率) (7.74%)	(複利年率) (6.41%)

### ファンドにかかわる費用

運用管理費用 (信託報酬)	年率0.99%(税抜き0.9%) 組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.65±0.5%(税込/概算)
------------------	--

### コドモファンド・浪花おふくろファンドにかかわる共通のその他費用・手数料

信託財産に関する租税、投資対象とする投資信託証券の売買に発生する売買委託手数料及びその手数料に対する消費税相当額等の費用、外貨建資産の保管等に要する費用は、お客さまの負担として、信託財産中から実費を負担します。

設定・運用・販売は株式会社パリティアセットマネジメント/金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2727号

※比率は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

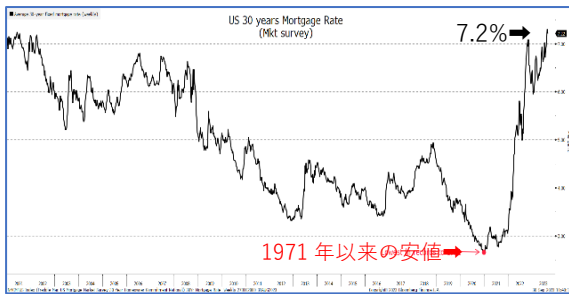


# YASUのマーケット・ストラテジー

9月は通常、株式市場が下落する傾向が強いことで知られています。2022年9月はMSCI世界指数が前月比9%以上下落し、今年の9月はそれ以来の最悪の月となったものの、下落率は同約4%にとどまりました。

米国のS&P500指数は統計上、年初から8月までに2桁上昇した場合、9月は最大の下落率を記録することが多いようです。しかし、そのような年は1978年、1987年を除き、残りの四半期に反発しています。

米国では9月中旬に、8月の小売り売上高や雇用統計、鉱工業生産指数などの経済指標が発表されました。個人消費などはやや鈍化する一方、年初来13%上昇している原油価格に伴いインフレが再加速するなど、米国FRBにとって「データ次第」で金融政策を舵取りすることがかなり難しくなっています。エコノミストは、米国景気がハードランディングではなく軟着陸に向かうと予想していますが、インフレ圧力が顕在していることを踏まえ、9月20日のFOMC後の会見でパウエル議長は、「高めの金利が長く継続する(Higher for longer)」というメッセージを發しました。



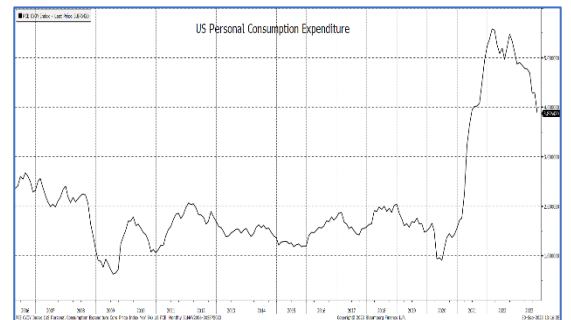
米国30年物住宅ローン金利

このややタカ派的な発言により、米10年債利回りは4.6%を上回りました。これほどの高水準に至ったのは2007年以来で、確実に個人消費やひいては経済全般への影響が出るでしょう。グラフが示す通り、米国30年物住宅

ローン金利は7.2%を超え、3年足らずで2倍以上に跳ね上がったこととなります。

一方、世界第2位の経済大国である中国の最近の歴史を振り返ると、2008年の金融危機の際には20世紀の米国がそうしたように、中国経済は大きな打撃を回避して危機のさなかに世界経済の成長を牽引することができました。しかし、現在は不動産バブルの余波への対応に追われ、欧米諸国の景気拡大には貢献できていません。中国当局が2008~2009年に講じたような大規模な景気対策が期待されていましたが、消極的な刺激策にとどまっているため短期的な効果はなさそうです。しかし長期的な影響については興味深く、今後も注視したいところです。

欧米諸国ではインフレリスクが依然とてくすぶる中、経済成長のペースは鈍化しつつあります。(米国個人消費支出は下落へ【右図】)したがって、以前述べた通り緩やかなスタグフレーションに陥るリスクがまだ存在しているという事です。



米国個人消費支出

つまり、インフレ圧力が持続する中、中央銀行は非常に慎重な姿勢を崩さず金融緩和は従来想定よりも先送りになるという悪循環が起こっています。しかし、資本コストの上昇が实体经济に影響を及ぼし始め、さらには物価上昇率もアナリスト予想を下回っており、利上げ打ち止めには確実に近づいていることを考えると、過度にネガティブになる必要はないかもしれません。

日本でも状況はほぼ同様ですが、一方で円安が進んでいるために為替介入をし始めているようです。インフレについては、生鮮食品及びエネルギーを除いた消費者物価指数が、1981年以来初めて4.3%に達しました。これを受けて日銀はインフレ目標を達成したと宣言できるでしょうか？物価上昇の主要因が円安による輸入物価上昇であるため、時期尚早でしょう。日銀の植田総裁は、持続的なインフレの鍵となる家計の収入を注視すると発言しています。しかし、黒田前総裁が昨年12月に長期金利の変動許容幅を拡大した際に、TOPIXおよび日本円がそれぞれ7%ほど上昇したことを考えると、日本の株式市場自体には明るい展望があるものの、日銀が現在の超金融緩和政策をどう解除して正常化するか、というよじ登るべき「不安の壁」がはだかっていることを忘れてはいけません。

とはいえ、日銀の金融政策正常化、または米FRBの利下げにより、米ドルと日本円の金利差が縮小すれば、円高や日本の資産価格の上昇から利益を得ることができるため、日本への投資の魅力は高まるはずで



樋口恭信

## 「JAPAN IS BACK」 新たな歴史が始まった

テレビ、新聞、インターネット...メディアから伝え聞こえてくる日本の未来は悲観的な話ばかりですね。少子高齢化、財政難、ITの遅れ、円安、いつまでたっても上達しない英語力。その上、地震・災害大国でもあります。

しかし「コンセンサスは間違う」のです。みんなが揃って「今後の状況はこうなる」と思えば思うほど、その通りにはならないものなのです。実際、日本のバブル期がそうでした。当時は皆が「これからは日本の時代だ」と舞い上がっていました。その後の悲惨な現実はいずれも皆さんも良くご存じの通りです。

また、私たちは、日々様々な情報に接しています。出来るだけ客観的にと思いつつ、実は『色めがね』で見ていることが多いのです。例えばコロナ禍の時、「コロナが怖い」という人は「今日は何人感染して、何人死んだ」という情報だけが目に入ってきます。一方「コロナは陰謀だ」という人は「ワクチンで副作用や死人が出た」という情報に注目してしまうのです。ニッポンがどうなるかについても同じです。「日本はもうだめだ」という人は、ネガティブな情報ばかりが目について「やっぱり日本はダメなんだ」と思ってしまいます。しかし、「ニッポンは必ず良くなる」というメガネに掛け替えてみると、ニッポンは沢山の可能性に満ちていることがわかるのです。

「これからの日本は驚くほど面白い」、そう思って見てみると、日本には他国にはない長所がびっくりするほどあります。本書では様々な日本の優位性、豊かな可能性について紹介しています。

今こそ、我々日本人自身が、日本らしい価値観、発想から多くを学ぶべきですし、未来に向かって行動を始める時なのです。日本は世界で一番こころ豊かに、幸せに暮らせる国になります。それだけでなく、今の世界の問題も解決できる可能性を日本人は秘めているのです。世界中の人々が「ニッポン」を求めています。ニッポン人として大きなチャンスとなる時代の到来です。

今は冬でも、必ず春が来ると信じているから、人は田畑を耕し、種をまきます。未来には春が、そして夏がくるという希望があって、はじめてリスクを取ってでも、将来に対するアクションが取れるのだと思います。

この本を読んでいただくと、未来が明るくなり、元気になっていただきたいと思います。ぜひ日々明るい気持ちで未来に向かって挑戦を始めてください。



多根幹雄

10月13日発売予定



## あいのり仲間

### 投信積立、楽しく継続中です。

久々に阪神タイガースが優勝し、大阪で住む自分のまわりが大変盛り上がる9月、再度原稿のお話をいただきました。早いもので3回目の投稿、今年の9月で49歳となりました。

日本で初めての独立系投信による、さわかみファンドで積立を始めたのは、下の子供が生まれた2006年です。以降、おふくろファンド、コドモファンドを含めた、いわゆる直販ファンド6本で、積立18年目になります。とはいえ、大学2回生(薬学部で卒業まであと4年半)に、高校2年生(理系に進んで残り?年)の学費の支払いを中心に、ここ数年は、追加積立している額より、取崩している額の方が多いたが現状です。最低限のお金だけ銀行に預けて、それ以外は投資にまわして、必要な時に取崩しています。投信であれば、おおよそ1週間あれば、すぐに現金化できますので、数学的に正しいかは別にして、楽しく続けていくために、自分で考え行動しています。

実はこれまで続けてきて、唯一気になっていたのが、新しい仲間がなかなか増えていかないことでした。来年から新しくなるNISA制度が大きく話題となっているなか、本年10月1日、クローバー・アセットはパリミキアセットに社名変更されました。皆さま、新しいHPをご覧になられましたか?今回原稿を書かせていただくにあたって、じっくり見させていただきました。色調も変わり、また「あいのり投資」をこれまで以上に前面に出し、新たに歩んで行こうという姿勢を、自分は感じています。二回目の就職先、堅苦しい公務員の職場で淡々と仕事を続ける自分ですが、本当にやりたいことは、相談相手の不安や悩みを和らげられる「お金とお酒の相談員」というコンセプトでの仕事です。「あいのり投資」のパリミキアセットさんに、お金だけでなく、全面的にあいのりさせていただくことで、自分のやりたいことに近づいていきたいと思っています。

ということで、関係者の皆様、またこれから新しく出会うであろう方々、どうぞよろしく願いいたします。

大井 正彦



大井様には10月7日に大阪で行われた

【パリミキアセット誕生「JAPAN IS BACK」出版記念パーティー】

で乾杯のお言葉をいただきました。

「お金とお酒の相談員」とは、まさにぴったりですね。こんな感じでコンセプトがはっきりしたお金の相談員は、とってもなじみやすいと思います。

今回の東京、大阪でのパーティーでたくさんのファンド仲間にお会いしましたが、今までセミナー後の交流会で、私が焼いたパンを振舞っていたことが結構話題になっていて、コロナ禍のタイミングで活動を縮小してしまったのが残念という声もいただきました。私も「おいしいパンの焼けるお金の相談員」として頑張っていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

磯野



## チームあいのり

### “Back to work（仕事に戻る）”の時代

先日弊社の「パリミキアセット誕生 & 『JAPAN IS BACK』 出版記念パーティ」においても少しお話をさせていただきましたが、日本が30年ぶりにデフレから抜け出し、今後長期のインフレ時代に入ることによって、私は日本人でワールドワイドに活躍する人材がすごく増えてくるのではと考えております。

主な根拠は、インフレ時代に転換することで、①日本人全体がデフレ時代に比べて行動がスピードアップし仕事をする時間が増えること、②企業の投資資金が増えることによって研究開発費も増え、それに伴い日本人、日本企業から新しい発見や新商品が今まで以上に増えていくのではないかとと思われるからです。

また今まで世界の先進国の中で、唯一デフレで苦しんでいた日本が他の多くの国々と同じインフレの下、様々な分野で競争できるようになることでしょう。

ただ、これは別に今後全ての人々が自然に幸せになるという訳ではなく、デフレの低金利で生き延びてきた企業などは金利上昇やコスト増で経営は苦しくなるなど、生きるのが楽な時代が終わり、必ずしも万人にとって幸せな時代ではないかもしれません。より豊かに生きる為には人、及び資産も英語でいう“Back to work”ではないかと思うのです。人々は時代の転換を認識し、時代に沿うように今までの行動を一度見直す必要があると思います。

最近、野球やサッカーをはじめ世界最高リーグなどで活躍する日本人選手が増えてきています。これが偶然であるかどうかは未だに自分はインフレとの関連性を整理できていないでいますが、今後もスポーツに限らずあらゆる分野で世界で活躍する日本人が多く輩出されてくることを願いますし、そのような時代が来るのではと肌で感じている次第です。

資産の“Back to work”につきましては、お客様の大切な資産を預かる運用会社が今まで以上に重要な役割を担うことになることを肝に銘じて切磋琢磨していく所存です。

これからもパリミキアセットをどうぞ宜しくお願い申し上げます。



宇野 隆一郎

## 運用報告会＜2023年4月～9月＞

2023年4月から9月までの半年間の運用状況をご報告いたします。私どもがどの様に考え運用してきたか、組入れファンドについてなど今後どの様に考えているかをお伝えしたいと思います。みなさまのお申込みをお待ちしております。



ファンドマネージャー  
宇野 隆一郎



代表取締役社長  
磯野 昌彦

### 〈東京〉

開催日時  
2023年

10月27日（金）  
18：30～19：30

#### 対面参加

定員：22名 対面セミナー後の交流会  
参加費：無料 参加費：2,000円程度

#### ネット参加

定員：30名 参加費：無料

#### 会場

東京スクエアガーデン6階 京橋環境ステーション研修室  
東京都中央区京橋三丁目1番1号東京スクエアガーデン6階  
京橋環境ステーション内

### 〈大阪〉

開催日時  
2023年

10月28日（土）  
13：00～14：00

#### 対面参加

定員：22名 対面セミナー後の交流会  
参加費：無料 参加費：2,000円程度

※10月28日はネット中継は行いません。

#### 会場

パリミキ アメリカ村店2F サロン  
大阪府大阪市中央区西心斎橋2丁目10番30号  
蔵人西心斎橋ビル2階

### ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、値動きのある国内外の株式等に投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。**投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者（投資者）の皆様に帰属します。**

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

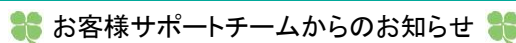
### ファンドにかかわる費用

当社が扱う投資信託に、購入・換金手数料および信託財産留保金はありません。

### 当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は株式会社パリミキアセットマネジメントが運用するファンドの運用状況をお知らせするために作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）等をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 当社でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料中に示された数値は、作成基準日現在において入手可能なデータを参照し、弊社にて計算しております。

### パリミキアセットから大切なお知らせ



#### 【新NISAの取り扱いを始めます！】

NISA恒久化に伴い、当社でも2024年1月からNISA口座の取り扱いを開始することになりました。

ゴドモファンド・浪花おふくろファンドともに成長投資枠にてご投資していただけます。

今までと同様に、NISA口座内で毎月つみたてサービスの利用やスポット購入をしていただけます。

詳細につきましては別途お知らせいたします。

#### 【「取引残高報告書(定期交付)」・「ご投資状況のお知らせ」の交付について】

「取引残高報告書(定期交付)」・「ご投資状況のお知らせ」を電子交付・郵送いたしました。

今回は2023年7月～9月末までにお取引（売買等）があったお客様および期間中にお取引がなくても残高がある場合には、最後のお取引から1年が経過したお客様が送付・電子交付の対象となっております。

「取引残高報告書(定期交付)」は、お預かり残高と取引の明細を定期的にご報告する法定書類です。

「ご投資状況のお知らせ」は、ご投資金額に対する報告書作成時点の運用損益を記載したものです。

これまでのお取引状況および運用状況（トータルリターン）をご確認ください。

#### 【特定口座の源泉徴収区分の変更について】

特定口座をご利用いただいているお客様の、2024年適用分源泉徴収区分の変更受付を開始しております。「源泉徴収あり・なし」の変更をご希望のお客様は、2023年12月1日（金）までに、お電話にて「特定口座源泉徴収選択届出書」をご請求くださいますようお願い致します。

#### ■ご注意■

・源泉徴収区分の変更は、2024年中の解約や配当金等の受入れの受渡完了後は変更できません。

・源泉徴収区分は、お客様からのお申し出がない場合は、前年の区分が継続されます。

#### 【毎月つみたてスケジュール】

次回引落日は、11月6日（月）

11月分金額変更・中止・再開締切日… 10月23日（月）

12月分新規・口座変更締切日… 10月31日（火）

※毎月つみたてサービスの金額変更・中止・再開については、お電話・マイページ上（再開を除く）でも承っております。

株式会社パリミキアセットマネジメント  
（受付時間：平日9時～17時）

お客様専用通話料無料ダイヤル：0800-5000-968

E-mail: [support@pmam.co.jp](mailto:support@pmam.co.jp)